

時 開催時間 対 参加対象
所 開催場所 申 参加方法
¥ 参加費 持 持ち物
定 定員(選定方法)

3/3 11周年
日 やはぎかん春まつり

矢作地域で活躍する市民活動団体や地域団体と協働して行う周年記念イベント。地域を支える公益活動に触れながら、ステージ発表、体験、展示、販売などをお楽しみください。

時 10:00～15:30
※9:30～10:00オープニング企画あり
矢作中学校と矢作北中学校の両合唱部がコラボレーションする合唱を披露します。

所 やはぎかん 全館
¥ 無料(一部有料)
申 直接やはぎかんへお越しください。



やはぎマルシェ 開店！

今回の春まつりでは、矢作地域の活性化を目的とした「やはぎマルシェ」(出店予定：近江屋本舗、渡邊米穀店、ダイワスーパーなど)企画もあります。

かき氷で話題になったダイワスーパーのフルーツサンドも販売予定です⇒



3/19 岡崎NPOコラボひろ
火 ば(おかぶら)

岡崎で活躍するNPOや社会貢献に興味のある個人、団体、企業が月1回集まる情報交換会。今回は「今年度を振り返り、来年度を展望しよう」をテーマに開催します。

時 13:10～15:00
所 図書館交流プラザ りぶら 103会議室
¥ 無料
申 市民活動センターへお問い合わせください。

NEWS

おとがワ！ンダーランド2019 説明会

時 4/10 (水) 18:30～20:00(予定)
所 Camping Office osoto
¥ 無料
申 直接会場へお越しください



せっかく交通の便のよい中心地を流れているのに、普段あまり使われていない乙川の河川敷をもっと有効活用しようと始まった「おとがワ！ンダーランド」も4年目に突入します。当初は、どんなルールや規制があるのか、どのような使い方が向いているのか、いつ、どこでやるのが適しているのか、など手探りでスタートしましたが、3年間の実施期間を経て、使い方のノウハウが蓄積されてきました。

説明会では、これまでの活用の具体例の紹介から、どのような使い方ができるか、どんな手続きや準備が必要かを伝えすると同時に、これまでのプログラム実施者と交流することができます。これから水辺を使いたい方は、ぜひご参加ください。

5/12 なごみんフェスタ
日 2019

市民と地域団体の交流を図ることを目的に、公益活動をしている団体のステージ発表や作品展示、食品や小物などの販売を行います。

時 10:00～15:00
所 なごみん 全館
¥ 無料(一部有料)
申 直接なごみんへお越しください。

定期プログラムの紹介 [新鮮野菜の朝市]



時 第1・3土曜日8:30～10:00
主 NPO法人 おかざき農遊会
※4/6(土)は桜まつりのため実施しません。

[乙川リパークリーン]



時 第2土曜日8:00～10:00
主 おとがワ！活用実行委員会

[QURUWA RUN]



時 第1土曜日8:45～10:00
主 QURUWA RUN実行委員会

まちのミカタ

Litaracy ーりたらしいー

97
2019年3月



特集

軒先1mのあたらしい日常

岡崎市の中心市街地では、名鉄東岡崎駅から乙川、籠田公園、りぶら、岡崎城といったまちなか全体を楽しくぐると巡るルート「QURUWA」の実現に向けて、いよいよ籠田公園が改修工事に入り、人道橋も橋としての姿が明確に現れてきて、東岡崎駅前の道路も日々整備されていくなど、まちが動き出しています。こうした中、QURUWAの一部でもあり、旧東海道も通る歴史ある連尺通りでは、どのような通りのあり方を目指すべきかを問われていました。そこで、この通りならではの過ごし方、使いこなし方を、ここで暮らす人や商う人、訪れ

る人たちと一緒に探すために「通り」を生活の舞台とした実験「連尺通り生活社会実験」を実施しました。

実施にあたっては、歩道に貼ったテープの内側であれば自由に使えるように行政に申請を行い、実際に通りでの過ごし方、使いこなし方を思いつく限り1つずつ試してみました。約1か月間の実験が終わる頃には、そこで生活する人にとっては通りが使えることは当たり前のようになり、未来の通りの風景を垣間見ることができました。(詳しくは次ページをご覧ください)

まちのミカタ

Litaracy

2019.03 vol.97

発行・編集



特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・Lita

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

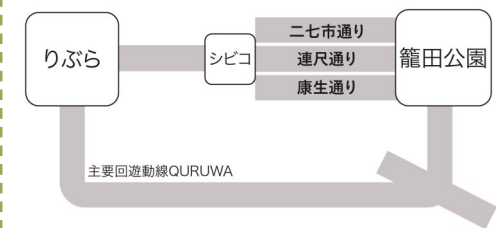
配布協力

岡崎市役所各支所 / 岡崎市各市民センター / シビックセンター / FMおかざき / 杉くんの駄菓子屋 / angelshare / コミュニティ・ユース・バンクmomo / cafeくらがり / CAFE & TABIBOOKS隠れ家 / 長誉館 / 松應寺

●生活社会実験の狙い

QURUWA戦略(※)に基づいて「連尺通り生活社会実験」は企画されました。連尺通りには商店主を中心とした組合のような組織があり、この会合を中心に勉強会を行い、何度も繰り返し集まる中で、通りの現状や今後どうあるべきかについて考えを深めています。

「無理をしないこと」という専門家のアドバイスもあり、まずは連尺通りの一部を対象に、歩道の軒先1m、植樹帯50cmにおいて実施。生活している人自身が歩道で「どのような過ごし方、使いこなし方ができるか？」ということを検証する実験をしました。自分たちが暮らしやすい未来の通りを生かした生活を試してみよう、という意味を込めて「生活社会実験」という名前にしています。



※QURUWA戦略：

乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用した公民連携プロジェクトを実施することによりQURUWAの回遊を実現させ、その波及効果として、まちの活性化(暮らしの質の向上・エリアの価値向上)を図る戦略。同戦略の中で「二七市通り」「連尺通り」「康生通り」の3本の通りは、りぶらと籠田公園のつながりを強化し、歩いて楽しめる道路空間として利活用・再構築することになっている。

●具体的に行ったこと

「無理をしないこと」を合言葉に、普段この通りにいない人を外から呼ぶことで賑わいを作るような、頑張って集客するイベントを企画するのではなく、既にあるいつもの生活を見直し、その生活の一部として通りをどのように使うことができるかを検討することにした。

“まずは実践してみねば“という思いで、りたのスタッフ(下里)自身が通りに延長コードを引っ張って、ノートパソコンを抱えてそこで働いてみることから始まりました。

最初の週は怪訝そうな顔で通っていく人がほとんどで不安になりましたが、通りに出てそこで働くことによって今まで見えていなかった「通りにある生活」に気づくことができました(表1)。

このような人たちの生活の1つ1つを発見し、それに合わせてベンチを動かしたり、人工芝を敷いてみたり、ご飯を売ってみたり、時には子供が遊ぶようにおもちゃを置いてみたり、ということを繰り返し、歩道の「使っていいエリア」を示したテープの内側に人がたたずみ、そこで時間を過ごすような仕掛けを試していきました。



午前	一服しながら新聞か本を読む喫茶店の店長さん
	シャッターを開けたら必ず声をかけてくれる呉服屋さん
	出勤途中の事業所のオーナーさん
	ウォーキングを日課にしている近所の人
お昼	近所のスーパーへ歩いて買い出しへでかける高齢者
	揃ってまかないを食べる料理教室のスタッフさんたち
	近くでご飯を食べて散歩をしに来る親子連れ
	通りで遊ぶ保育園帰りの近所の子どもたち
夕方	近所の小学校から下校する子どもたち
	犬を連れ出して下校を見守るおばあちゃん
	お惣菜を売り歩く近所のカフェの人

【表1】連尺通りで生活する／見かける人たち(平日の例)

●実施結果や考察

今回の社会実験の特徴は、通常1日から1週間くらいといわれている実施期間を、申請できるおよそ最大の期間(約1か月)に設定し、徐々に作り上げていくという計画を立てたことにあります。そこにいる人を見ながら、配置や設置物自体も更新することを繰り返し、1つの型にはめない仕組みを作ることで、連尺通りで生活する人々が自分ごととして通りに関わることができました。自由に机や椅子を動かして、その使い方のイメージがまちの人にも伝わったことで、ただ通り過ぎるだけだった場所で時間を過ごしてもらえるようになりました。住んでいる人たちが道路を活用する意義を体感して、今回の取り組みに共感する人が増えたことも大きな収穫でした。この実験をどのようにしたら「日常」にすることができるかを今後も検討していきます。

1月～2月のりた

なごみん

1/19

まち育てスクール「細川の歴史再発見～中根洋治先生と歩く800年の道～」



郷土史家の案内で地域の寺院などを巡るまち歩き。「細川」の地名が風土に由来する話などで盛り上がり、参加者の探究心を掻き立てる企画となりました(25名参加)。

やはぎかん

1/19

防災啓発ドキュメンタリー「いつか君の花明かりには」上映会



防災啓発を目的としたドキュメンタリー映画の上映と監督の講演を実施。日本における災害発生頻度や防災心理などを学び、自助・共助の意識を高めました(140名参加)。

市民活動センター

1/19

NPO講座 子どもの遊び場を中心に地域がつながる～プレーパークや森のようちえんの事例から～

東海地方を中心に子どもが自らの意思で自由に遊ぶことを目的としたプレーパークの普及に携わっている、塚本岳氏を講師に迎え、地域づくりを考えました。当日は、岡崎市内でプレーパークの実現を目指す市民活動の動きや屋外保育に力を入れている幼稚園の事例紹介なども行われました(28名参加)。

まち育て推進チーム

1/19・2/2

岡崎市シェープロモーション活動推進支援業務 おかざきカメラがっこう



まちへ出て、人に会い、写真を撮ることで岡崎の魅力発見・発信する講座。1/19は商店、2/2は生産者を中心に訪問(20名参加)。
※「#岡崎カメラがっこう」で検索

市民活動支援チーム

2/3

第8回岡崎まち育てフェスタ『まち育(行く)！フードフェスタ』



地域交流センターと市民活動センターが総力を結集して市民活動の祭典を開催(21団体が担い手として参加)。市民団体と事業者が協働して地元特産品を活かした「まち育フード」の企画・販売をしたほか、各センターがイチオシの公益活動を紹介する「まち育シアター」、各センターを拠点に活動する団体によるバンドやダンスなどの「ステージ発表」を行いました。「まち育フード」は売り切れが続出するほど大盛況で、約600名の一般来場者に向けて「岡崎の公益活動のいま」をPRすることができました。

よりなん

2/16

まち育てスクール「緑の丘を歩こう～文教地区と歴史地区～」



地域の魅力の再発見を目的としたをまち歩きを開催。本宗寺をはじめ県立農業大学の追進館や馬頭観音寺を巡りました(22名参加)。

まち育て推進チーム

2/17

乙川リバーフロントQURUWAシンポジウム



今号で取り上げた連尺通りや乙川河川敷の取り組みをはじめ、「QURUWA戦略」ができてから1年間の乙川リバーフロント地区の動きを概観し、先進事例紹介を踏まえ、次年度以降のまちづくりを展望しました。パネルディスカッションでは、「市民や事業者が行政と共に“都市経営”を考えることが重要」という指針が示されました(145名参加)。

悠紀の里

2/24

4周年ゆきフェスタ



悠紀の里の周年記念企画。公益活動を行う団体や個人の成果発表の場として、歌やマジックなどのステージのほか、作品や活動紹介の展示を行いました(1111名参加)。